



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 287

2021/02/01

今月の一枚

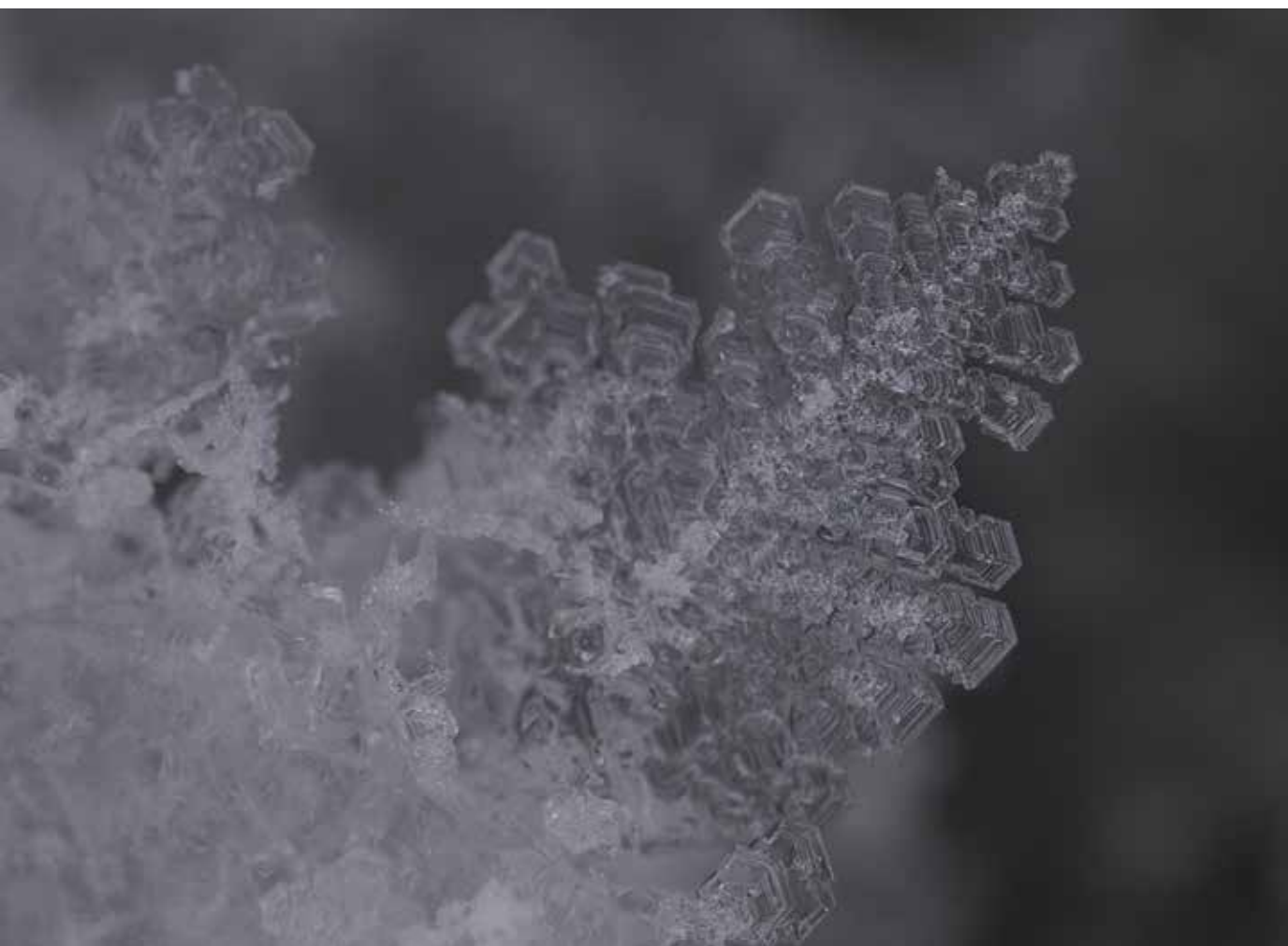
今月のイベント

参加者募集

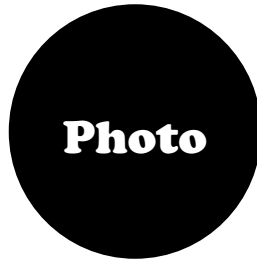
GREEN COLUMN

01. 知床半島でイトウ!?

02. 幻想的なマジックアワー



今月の一枚



「自然の造形美」

表紙写真・文／町田善康

寒い。というより痛い。マイナス 20 度を下回った朝は、体の芯から冷えてきます。それでも、自然がつくる美しさが見たくて、また外に出てしまいました。北海道に暮らすのですから、この時期この景色を見なくてはもったいないです。

しかし、いつも感じるのは、目を見た時のほうが綺麗なんです。いくら頑張っても写真では、この美しさを伝えられません。だから、皆さん、寒くても絶対、絶対、外で見たほうが良いですよ。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月6日(土)～3月7日(日)

ロビー展「ひな祭りとひな人形」 2月13日(土)～3月3日(水)

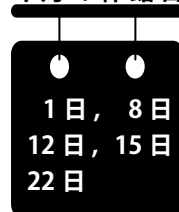
プチ工房「モザイクタイルのコースター」 2月19日(金), 20日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「モザイクタイルのコースター」

● 2/19(金), 20(土) ① 10:00 開始, ② 13:00 開始, ③ 14:30 開始。所要時間 60 分～, 作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 300 円, マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(2/1-18)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要, 各回定員 12 名で締切。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

知床半島で イトウ!!

写真／菅野貴久・文／町田善康



言わずと知れた日本最大魚級の淡水魚イトウ。1mを越えるその巨体を一目見たいと、多くの釣り師が憧れます。かつて、イトウは、道内各地の川に生息していましたが、川の上流で生まれ、大きくなると下流の深みや沿岸で暮らすダイナミックな生態が仇となり、減少の一途をたどりました。そして今では、限られた場所ではしか見ることができない幻の魚になってしまいました。

さて、美幌博物館には24,339点（2021年1月現在）の魚類標本が収蔵されています。その中でも、1970年代に後藤晃先生（北海道大学）と水野信彦先生（愛媛大学）が道内各地で採集された魚類標本は、高度経済成長期の北海道の淡水魚類相を知るうえで大変貴重な標本となっています。今回、この標本を詳しく調べてみると知床半島の河川にイトウがいたことがわ

かりました。知床半島でのイトウの記録は、ルシャ川（小宮山，1981）と遠音別川（秋葉，2006）に続く3例目となりました。しかし、現地調査を行ったところ、イトウが発見された川には多数の治山ダムが建設され、イトウが安心して暮らせる環境はすでになくなっていました。それでも今後、イトウの保全を考えるうえでは、こうした過去の生息状況は大変貴重です。そこで、私たちは「博物館標本から明らかになった北海道知床半島におけるイトウの新産地」というタイトルで、日本生物地理学会が発行する会報に論文を発表しました。イトウ研究者からは、「2020年のイトウ重大ニュースのトップ3に入るくらい衝撃的」という賛美を受ける論文を書くことができました。主著者の菅野貴久さんに感謝です。

幻想的な マジックアワー

写真・文／鬼丸和幸



すっかり野山は白い雪で覆われた季節になりました。この季節、白い風景の中で見る朝焼けや夕焼けは、格別に美しく見えます。日の出前、夏の間に昆虫調査をしていた郊外の防風保安林を撮影していると、とても幻想的な光景に出会えました。

一日の中で、“マジックアワー”と呼ばれる時間があります。日没前、そして日の出後の数十分間です。この時、太陽光線が美しい赤色となり、風景が金色に輝き幻想的になります。また、マジックアワーと同様、“ブルーアワー”と呼ばれる日の出直前の時間は、辺り一面が美しい濃青色で覆われ、ドラマチックな風景を見ることができます。なぜ、このような美しい色となるのでしょうか。

いろいろな色の光が混ざってできている太陽の光は、空気中の微粒子に当たり、散乱して私たちの目に届きます。

朝や夕方は、太陽が低い位置にあるため、大気中を通る太陽の光は、昼間より長くなります。そのため、散乱しやすい青い光は衰退し、散乱しにくい赤や黄色の光が目立つようになるため、美しい朝焼けや夕焼けが見えることになります。

もっとも、この光の色は、雲の種類・量・方向、さらに湿度によっても大きく左右されます。太陽の方向に雲がなく、空の高い位置に巻雲や高積雲などの雲が出ていると、さらに美しい色になるということです。運良く、太陽の方向に薄い雲があり、適度に青い光や赤い光を反射してくれると、紫やピンクに空が染められる瞬間が見られるかもしれません。

寒さをちょっと我慢して、素敵なマジックアワーを体験されてはいかがでしょうか。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



「股引はオジンが履くもの」と、これまで頑固に拒否していましたが、「最近は、インナーと呼んで、ユニクロでも若者に流行っていますよ」と言われ、履いてみると…確かに暖かい！インナーと呼ぶと、股引というオジン言葉の響きから解放されて、感情的に違和感なくなりました。(鬼丸)